



第2号 ご挨拶

中国における新エネルギー産業は、国からの特別な支援が与えられているハイテク分野となっており、新エネルギー乗用車や商用車の完成車両、パワーバッテリーなどの中核部品のテスト用プラットフォームも構築され、充電設備網が整備されつつあります。第13次5ヵ年計画のもと、国を挙げてこの産業の強化を図っています。同時に、認定を受けたハイテク企業に対して、コンプライアンス要件が変更され、政府による監督が引き続き強化されています。新エネルギー自動車産業への対応にも、来たる自動運転車の到来に向けても、企業には変化への迅速な対応が求められます。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

1. 新エネルギー自動車(NEV)産業の税制優遇措置と今後の発展動向(後編)

中国の新エネルギー自動車(NEV)産業はスタートの段階を終え、加速成長の段階に突入していると言えます。中国政府のNEV普及推進政策も、補助金による奨励から市場アプローチと規制による強制的な管理へと移行しているようで、NEVの技術的研究開発とNEV産業の工業化は加速しており、企業と研究機関が一体となって取り組みを進めることで、海外のトップレベルに追いつきつつあります。これまでのところ、中国がNEV開発を奨励するために採用している直接的な優遇措置は個人消費サイドが中心ですが、NEVの生産サイドでは、政府が近い将来、関連企業の研究開発能力の拡充を奨励すると予想されます。従って、バリューチェーンの中では、イノベーション活動が税制上、政策上の優遇措置を受けることになるでしょう。

> [全文はこちら](#) (日本語)

2. ROICの活用による企業価値向上

企業は、売上高、利益、売上高利益率といった「フロー指標」を重視している傾向が見られますが、投資家は資本生産性指標を重視しています。多くの投資家は、ROIC(Return on Invested Capital: 投下資本利益率)から資本コストであるWACC(Weighted Average Cost of Capital: 加重平均資本コスト)を控除したROIC Spreadを企業価値の源泉と考えており、ROICを投資判断における重要な指標と位置付けています。また、企業が重視している「コスト削減の推進」や「事業規模・シェアの拡大」を投資家は重視しておらず、投資家が最も重視しているのは「事業の選択と集中(経営ビジョンに即した事業ポートフォリオの見直し・組換え)」であり、これを日本企業の課題と捉えているものと思われます。

> [全文はこちら](#) (日本語)

3. 変化する市場: 自動運転車時代の自動車保険

自動運転車への転換は、歴史に残るほどの規模の変化になるでしょう。おそらく1世紀前に自動車そのものが世に出て以来の変化です。もちろん、市場が一夜にして自動運転車に入れ替わるわけではなく、今後どのようなペースで変化が起きるかは誰にも予想できません。しかし、KPMGが行った分析を総合すると、この変化は4つの段階を踏んで進んでいくと考えられます。現在は、好奇心と導入の「補助輪」フェーズですが、2025年には市場に出回る自動車の多くが転換期を迎え、「フルスピード」フェーズに移行します。変化のフェーズごとに8つの主要要素において、進化と連携が進む必要があり、最終的に、全面的な変革へとつながっていきます。この自動車業界に待ち受けている破壊的変化の議論を、次は保険にまで拡げなければなりません。

- > [全文はこちら](#) (日本語)
- > [全文はこちら](#) (英語)

Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: gjpmarkets.china@kpmg.com
Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+862122122247) (日本語)